

かへらざるは、名行のやぶれそめしによれる事とぞ見えたる、かくてしばし鎮まれりしに、主上
 上皇○後河御中惡しくて、主上の外舅大納言經宗後臣大將に召還されて、御めのと子の別當惟方等、上
 皇の御意に背きければ、清盛朝臣に仰せて召し捕へられ、配所に遣はさる、これより清盛天下の
 權をほしきまゝにして、程なく太政大臣にあがり、その子大臣の大將になり、剩へ兄弟左右の大
 將にて並べりき○中略天下の諸國は、なかば過ぐるまで家領となし、官位は多く一門家僕にふさ
 げたり、王室の權、更になきが如くになりぬ、

〔源平盛衰記〕清盛捕化鳥并一族官位昇進付禿童并王莽事

清盛○中略仁安元年任内大臣兼宣旨并饗祿ナカリケレ共、忠義公藤原ノ例トゾ聞エシ、同二年

ニ太政大臣ニ上ル、左右ヲ經ズシテ此位ニ至ル事、九條大相國信長公ノ外、摠ジテ先蹤ナシ、大將

ニアラテ共、兵仗ヲ賜テ隨身ヲ召具シテ執政ノ人ノ如シ、輦車ニ乗テ宮中ヲ出入ス、偏ニ女御入

内ノ儀式也、太政大臣ハ訓導之禮重ク、儀刑之寄深ケレバ、地勢大ナリトイヘ共、賢慮不足者、無當

其仁、雖天才高、政理不明者、猶非其器、非其人、黷ベキ官ニアラザレドモ、一天ノ安危由身、萬機ノ理

亂在掌ケレバ、不及子細、親子兄弟大國ヲ賜リ、兼官重職ニ任ジケル上、三品ノ階級ニ至ルマデ、九

代ノ先蹤ヲ越、角榮ケルヲユ、シキ事ト思シ程ニ、清盛仁安三年十一月十一日、歳五十一ニテ重

病ニ侵サレ、爲存命忽ニ出家入道ス、法名ハ靜海ナリ、其驗ニヤ宿病立ドコロニ愈テ、天命ヲ全ス、

人ノ從ヒ付事ハ、吹風ノ草木ヲ靡スガ如ク、世ノ偏ク仰グ事、降雨ノ國土ヲ潤ニ異ナラズ、サレバ

六波羅殿ノ御一家ノ公達ト云テケレバ、花族モ英才モ、面ヲ向ヘ肩ヲ並ル人無リケリ、太政入道

ノ小舅ニ、平大納言時忠卿ノ常ノ言ニ、此一門ニアラス者ハ、男モ女モ尼法師モ、人非人トゾ被申

ケル、斯リケレバ如何ナル人モ相構テ、其一門其ユカリニムスボ、レントゾシケル○中サレバ

烏帽子ノタメヤウ、衣紋ノカ、リヨリ始テ、何事モ六波羅様ト云テケレバ、天下ノ人皆學之隨之